小鷹利城跡で礎石建物を発見

―姉小路氏の一角・向氏（小鷹利氏）の御殿か―

飛騨国司姉小路氏城館跡の調査

飛騨市古川町には、中世に朝廷より飛騨国司として任じられた「姉小路氏」、その後に南飛騨から勢力を伸ばし姉小路氏の名前を継いだ「三木氏」、秀吉の命を受けて飛騨を統一した「金森氏」という3つの勢力が移り変わったようすが分かる遺跡が残っています。代表的なものが古川城跡・小島城跡・野口城跡・向小島城跡・小鷹利城跡です。

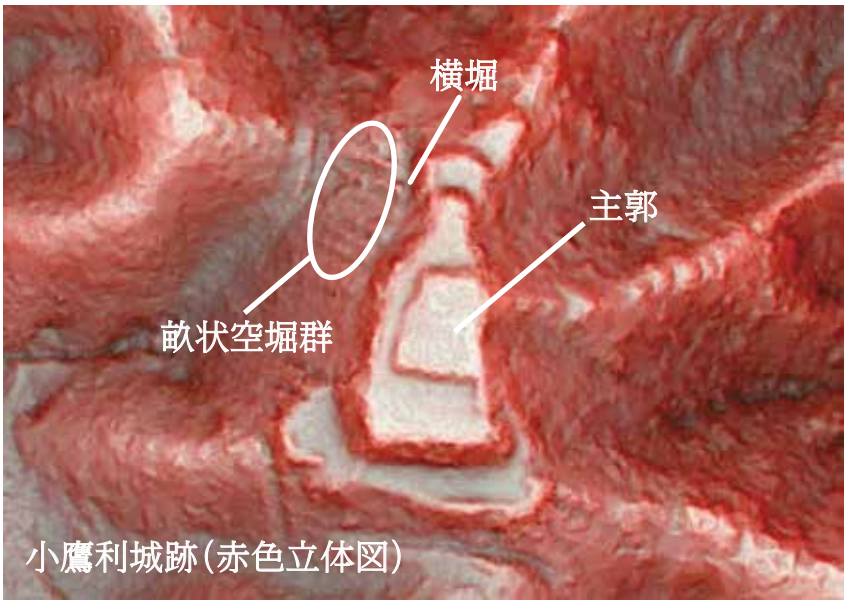
市教育委員会では、この5つの城跡の国史跡指定を目指して平成30年度から調査を行っており、今年度は野口城跡・向小島城跡・小鷹利城跡で発掘調査を行いました。

姉小路氏 基綱画像（蒲家蔵）

▲小鷹利城跡の発掘調査のようす

▲出土した青磁の碗の破片

▲小鷹利城跡の礎石建物



▶主郭の西側の斜面には十数本の畝状空堀群がある

小鷹利城跡で礎石建物を発見

小鷹利城の役割

小鷹利城は古川町信包・黒内と、河合町稲越の境目に立地し、姉小路三家の一角・向氏が治めた山城と伝わります。城名は向氏の別称「小鷹利」を冠します。16世紀の前半頃から向氏が没落していくと、代わって三木氏が押さえていたと考えられます。

小鷹利城跡は「境目の城」としての役割があります。白川郷方面から保峠・湯峰峠を越えて古川盆地を攻め入る敵を迎え撃つ場所に立地しているのです。西側の斜面には畝状空堀群と言われる敵の移動を防ぐための十数本の堀を設けており、城郭としても白川郷方面からの敵を警戒していることが分かります。天正13年（1585）に、金森軍はこのルートを通って攻め込んだとされています。

主郭で御殿の可能性がある礎石建物を発見

山城には、山を削って造られた平坦地がたくさんあります。これを曲輪と言い、中心的な大きな曲輪を主郭と言います。

小鷹利城跡の主郭で、8間×3間の礎石建物を確認しました。建物は5間×2間が張り出しており、曲屋と呼ばれるL字状の形状となります。建物は、今の古川町信包・黒内といった自身の領地を見渡せる位置に建っていました。

遺物は、青磁の碗や珠洲焼の甕が見つかりました。これらの年代は向氏が治めていた16世紀初めあたりのものです。

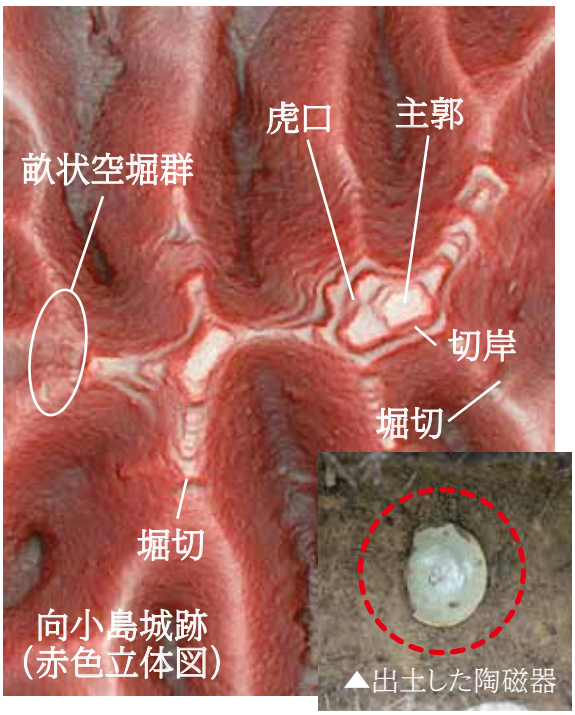
このため、見つかった礎石建物は、姉小路氏の一角・向氏（小鷹利氏）の御殿であった可能性が高いと考えられます。

向小島城跡で曲輪を大規模に造成した痕跡を確認

向小島城跡は古川町信包・笹ヶ洞の境目に立地します。姉小路氏の一角・向氏が治めた城と伝わります。古川盆地の西側に位置し、北は越中西街道、西は湯峰峠の出入りを監視します。16世紀の前半頃から向氏が没落していくと、小鷹利城跡と同じく三木氏がここを治めていたと考えられます。

主郭の発掘調査では、石材を土留めとし、大規模に急斜面を造成していたことが分かりました。この人工的な急斜面を切岸（きりぎし）と言います。その先には尾根筋からの敵の侵入に備える堀切（ほりきり）と言う堀を設けていました。向小島城跡では、南側（笹ヶ洞側）に、切岸と堀切を設けており、厳重な警戒を払っていたようです。

また、16世紀中ごろの瀬戸美濃焼の天目茶碗や皿などが見つかりました。



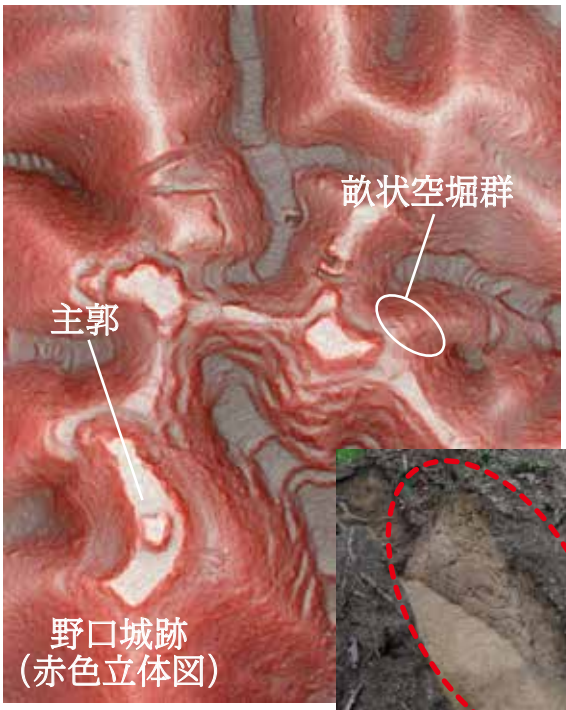
▲出土した陶磁器

野口城跡で100点を越えるカワラケが出土

野口城跡は古川町野口と袈裟丸の境目、古川盆地の最北端に位置する山城です。富山への街道と数河峠への街道の合流点に立地することから、古川盆地を治めた姉小路氏にとって重要な城の一つであったと考えられます。

調査では、主郭に柱を建てるために掘られた穴をいくつも確認しました。これを柱穴（ちゅうけつ）と言います。これらは、建物が建っていた痕跡です。また、畝状空堀群では断面で造成方法を確認しました。

さらに、当時の酒器であるカワラケが100点以上も出土しました。建物内で使用していたのでしょう。他にも16世紀前半の中国製の天目茶碗や瀬戸美濃焼の皿、古銭などが見つかりました。



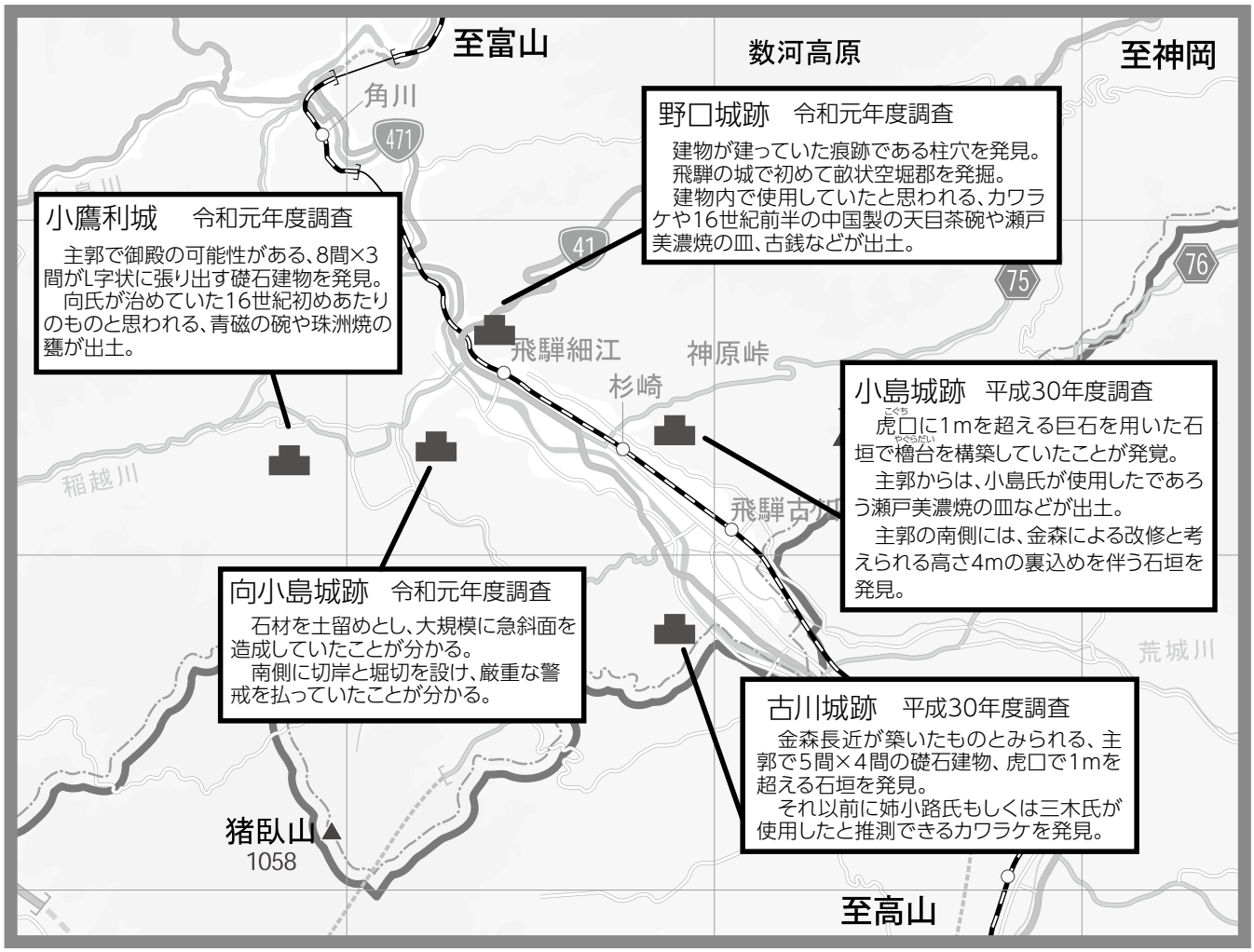
◀畝状空堀群の断面

▶向小島城跡の切岸

▶野口城跡で発見された柱穴

▶野口城跡で出土したカワラケの破片

いままでに行われた発掘調査の結果



山城の調査から明らかになること

今年度の調査では、山城の地下に姉小路氏の一族の生活のようすがよく残っていることが分かりました。

建物の基礎となる礎石や柱穴などが見つかり、切岸や畝状空堀群がどのように造成されたかを明らかにすることができました。また、3つの山城で見つかった陶磁器類のうち、当時の高級な輸入陶磁器である青磁や天目茶碗などは戦で使うものでなく、生活用具です。武将が一定期間山上で生活を送っていたのかもしれません。このような事実が明らかになったのは、大切な城跡を守ってきたからです。

市では、発掘調査に加え、文献調査、歴史地理調査、石垣測量調査などを行っています。山城がいかに構築されたのかに加え、町や城の成立過程を検討し、現在の町づくりへのつながりを明らかにしたいと考えています。

明らかになった成果や課題は、歴史講座や山城イベント、現地説明会などで引き続き市民の皆さまと共有いたしますので、継続する調査にご注目ください。

市教育委員会では、文化財ホームページ、facebookで山城などをはじめとした飛騨市の文化財の魅力を紹介しています。ぜひご覧ください！

文化財HP

facebook

問 文化振興課
TEL 0577-73-7496